第 19 回世界 ARDF 選手権大会開催される（韓国束草市、2018 年9 月2 ～8 日）

19th World ARDF Championships Sokcho, Korea（September 02-08, 2018）

9 月 2 日～8 日，第 19 回世界 ARDF 選手権大会が韓国東北部の日本海に面した都市，江原（カンウォン）道束草（ソクチョ）市で開催されました。28 の国と地域から 320 名の競技者が参加し，JARL 派遣日本選手団は 27 名の選手，2 名の国際審判・審判オブザーバー，6 名のサポーター等で編成されました。クラシック競技の 2 競技，FOX オーリング競技，スプリント競技の 4 競技で競いました。

韓国での大会の楽しみの一つが開会式でのショーです。毎回，古典芸能をアレンジしたものと，現代的なダンスなどが華麗に披露されます。宿舎となったホテルの駐車場に特設ステージが設けられ開会式や表彰式がおこなわれました。ホテル周辺で試験電波での受信トレーニングの最中に，ステージでは出演者によるリハーサルが念入りにおこなわれていました。ところが，天候は少しずつ雨模様に。結局は強い雨になったのでショーは中止になり，開会式では参加者に急遽配られた簡易レインコートを着用して雨中での開催となりました。この後の大会期間中は朝に雨が残っていることはありましたが，日中に雨が降ることはなく，競技と特設ステージでの表彰式・閉会式は快適におこなわれました。

競技は 4 日から 7 日まで毎日開催され，ホテルからバスで 1 時間ほど移動した場所でおこなわれました。

▲開会式のようす

競技地域は藪が多く通り抜けが困難で，峰を 3～4 か所超えなければならないものがありました。

峰を超える道や川に掛かる橋が少なく，行き止まりの道から藪こぎをしたり大きく迂回したりと苦労した選手もいましたが，日本の植生に近いことから日本選手には有利だったとも言えます。

最初の FOX オーリング競技は微弱な送信出力の TX が使われ，競技地図に示された地点に行くと受信できるというオリエンテーリングに近い新しい競技です。日頃からオリエンテーリング大会でも活躍している M60 クラスの JR1EYZ 大野政男さんが 4 位と上位に入りました。そして，3 位とは 3 秒差，1 位とは 53 秒差と僅かにメダルに手が届かなかったという惜しいものでした。僅差でメダルを逃してしまった悔しさに大野さんは思わず泣いてしまったそうです。

続いてのクラシック第 1 競技では，フィニッシュで待つサポーターの前には競技が開始されてから 1 時間以上経過しても競技者が現れませんでした。「少し距離が長い」との事前説明があったことから厳しいコースであると思われました。予想の通り，リタイア者と自力でフィニッシュはしたがタイムオーバー者が続出する厳しいコースでした。

▲FOX オーリング競技 M60 クラスで JR1EYZ 大野政男さんは 4 位に入ったが，3 秒そして 53 秒に泣いた

▲W19/M19 クラスの高校生も頑張った（FOX オーリング競技）

▲クラシック第 1 競技 M70 クラスで 1 位の JH5FUL 松浦孝行さん。松浦さんは西日本豪雨で飼育していた雉の雛に大きな被害を受けたが，被災を乗り越えて本大会に参加した。

リタイアを覚悟した競技者は国を超えて自然と集結し共同で対処しました。世界大会では携帯電話などの通信機器の携行が禁止されていることから，地元民を見つけたら通じない英語や韓国語で書かれたヘルプカードを示して大会本部へ電話してもらい回収を待ちました。競技者は無理をせずにリタイアを決断したことで捜索騒ぎもなく競技は順調に進行しました。

この厳しいコースの競技でしたが M70 クラスで JH5FUL 松浦孝行さんが 1 位に，チーム対抗でも同クラスで日本が 1 位になりました。

日本選手団員は表彰式で君が代が流れると目頭を熱くしながら熱唱し，「いつか自分も世界大会で君が代を！」という思いを強くしました。チーム対抗はクラシック競技だけにあるもので，各チーム上位 2 名の成績を合算して順位が決められます。圧倒的な成績で優勝した競技者がいてもチーム対抗ではメダルを獲得できないこともあります。優秀な 1 名だけでは上位にはなれないことから，選手層の厚さが求められるものです。

スプリント競技は各 TX の 1 回の送信時間が 12 秒間，競技所要時間が 30 分前後とスピーディな競技です。第 17 回大会（2014 年，カザフスタン）から公式競技になった新しい ARDF の遊び方です。

日本ではベテラン競技者であっても経験が少ないことから，強化練習会を開催して大会に挑みましたが，上位に入れませんでした。しかし，日本選手は全員が自力で時間内にフィニッシュできていますので，経験を積んでいくことで今後の競技力向上が期待できます。

最後のクラシック第 2 競技は標準走行距離は長かったのですが，それほど厳しいコースではなかったようで競技者は順調にフィニッシュを続け，リタイア者とタイムオーバー者は僅かでした。日本選手は全員が制限時間内にフィニッシュしました。この競技でも松浦さんは 3 位と活躍し，チーム対抗でも 3 位とメダルを獲得しました。

日本代表選手は昨年の全日本 ARDF 競技大会での成績優秀者から選考されました。ほとんどが国際競技大会の出場経験があり，高校生中心の W19/M19 クラスの選手も半数が昨年開催の第 3 地域 ARDF 選手権大会（モンゴル）出場者であることから，今回の好成績は国際大会出場を続けてきた成果です。

日本選手は競技以外でもベストを尽くして大会を楽しみました。競技を終えたらフィニッシュに向かう競技者を応援，時には未帰還の日本選手の名を叫んでいました。ホテル最上階には特別アマチュア無線局 HL19ARDF が設けられていましたが，ここにも熱心に通っていました。

すべての競技を終えた最後の夜は，夕食を兼ねたさよならパーティーでは一緒に写真撮影，プレゼント交換など各国参加者と親睦を深め，次の大会での再会を約束していました。

▲スプリント競技でフィールドを駆け巡る選手のようす

▲クラシック第2競技表彰式のようす

▲ホテルに記念局 HL19ARDF が設けられた

▲DMZ 見学ツアー。高城統一展望台から北を望む

束草市は，朝鮮戦争勃発前には北朝鮮の支配地域でした。宿舎から「境界」には車で1時間ほどと近いことから，大会行事として DMZ（Demilitarized Zone，非武装地帯）見学がありました。

北朝鮮を望むことができる高城統一展望台は民間人出入統制線内にあることから見学者名簿を提出し，小銃を携行した軍人による検問所を通過するというもので，軍事施設の撮影禁止も指示される物々しいものでした。北朝鮮の核開発で脅威が高まる一方で米朝首脳会談の開催，韓国政権は親北路線と融和ムードが高まっていますが，現場は一瞬も油断が許されない最前線でした。

展望台には各宗教にちなんだ統一を願う像などが北に向いて建てられ，近くの DMZ 博物館には「鳥は自由に往来できるが，人はできない」との展示があって分断国家の悲しみが伝わりました。戦死者追悼施設でもあるソウルの戦争博物館には朝鮮戦争での18か国40,790名の国連軍戦士者名が刻まれ，展示の冒頭に「平和な時に戦争に備えろ」とあり，北朝鮮軍により多くの市民が殺され，北に連れ去られた悲劇を伝えていました。帰国時には数名の日本選手が空港でスーツケースに入れた受信機が荷物預けの際に不審物と思われ理解を得るのに苦労しました。日本出国時には問題視されなかったことから，韓国のテロ警戒の強さを実感させられました。

昨年北朝鮮情勢の緊張が高まった際には，ヨーロッパ諸国を中心に安全な大会開催への不安の声があがりました。JARL では，大会開催を前提に参加準備を進めてきましたが，趣味を楽しむには，平和であることが重要であることを改めて感じさせられた大会でした。

▽大会サイト（競技成績や，大会中の写真を掲載）

http://www.ardf2018.kr/

▽ARDF 日本　競技地図などを掲載

http://www.ardf.jp/world/2018w/2018w.html

（レポート：JP3EVM 植木　等さん）

▲今回の世界選手権日本選手団の記念撮影